



特定医療法人社団

# 鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス  
<http://www.hovukai.org/>

第77号

発行:2012年9月15日  
発行責任者:  
特定医療法人社団 鵬友会  
事務局長 池島 守



## 認知症の今後

～厚労省の『今後の認知症施策の方向性について』の概観～

横浜ほうゆう病院 院長 日野 博昭

認知症の今後ということで、最近発表された新聞記事から厚労省が示す認知症医療に対する今後の方向性について考えてみる。

『厚労省、認知症在宅ケアを強化』—看護師らが家庭訪問 早期診断の施設整備

厚生労働省は18日、認知症患者の急増に対応するため、看護師らによる専門家チームが認知症と思われる高齢者宅を家庭訪問し、早期に医療支援に着手することを柱とした報告書をまとめた。認知症になっても早期治療により悪化を防ぐことで、安易に精神科や介護施設に頼らず、住み慣れた自宅で生活できるように在宅ケアを強化する。

年内に2013年度から始まる認知症施策5カ年計画を策定し、13年度概算要求に反映させる。計画には早期診断を実施するセンター数などの目標値を入れ、市町村の介護計画や医療計画にも盛り込みたい考えだ。(中略)

報告書のポイント▼看護師や作業療法士らによる「認知症初期集中支援チーム」を設置し、患者や家族を支援▼研修を通じて、かかりつけ医の認知症対応力を向上▼「身近型認知症疾患医療センター」を整備し、早期診断▼薬物治療のガイドラインを策定▼精神科への入院期間を短縮するため、在宅復帰の支援体制整備▼若年性認知症患者のニーズを把握し、就労を支援(2012年6月19日)【中日新聞】

<http://iryuu.chunichi.co.jp/article/detail/20120619133959974>

この報告書は突然出てきたような印象はあるが、実際はここ数年の精神科医療・認知症医療への厚労省の調査やメディアからの情報から予測されていた内容ではある。近年、新規抗精神病薬の登場で統合失調症患者の入院期間が大幅に短縮し、その空いた病床に認知症患者が入院しているということは様々な調査から広く知られてきている。実際は、BPSD(認知症の行動心理症状)が問題となって入院に至ってはいるが、ある程度落ち着いても退院先がなく、長期化している事例が多いと思われる。

わが国の国民医療費は毎年数%ずつ上昇している。特に50%以上が65歳以上の高齢者の医療費となっており、これを減少させようと厚労省がいろいろな方策を出してきているのは周知のことである。認知症患者の医療費も当然高齢者のそれを大幅に占めている。高齢者医療費を抑制するための1つの対策としては、認知症患者の精神科入院そのものを抑制するということは容易に推測できる。

認知症を早期に診断し、今後の見通しを早いうちから予測しておくことは重要である。特にアルツハイマー型認知症ではBPSDは前期の後半から中期に出現することが多く、この時期に早くから医療や介護などの社会資源を投入することで、BPSDをより最小限に抑えることができるかもしれない。しかし、65歳以上の高齢者の子供との同居率は年々低下し、平成21年には43.2%となっており、1人暮らしまたは夫婦のみの世帯は逆に大幅に増加し、52.9%まで増えている。夫婦のみで2人とも認知症や認知症の独居患者もわれわれは実際に経験しており、同居家族がいても日中は皆仕事などのため不在で、実質独居となっていることも少なくはない。この状況で「在宅復帰の支援体制整備」で在宅ケアが成り立つ家庭がどれほどあるのか甚だ疑問である。

また、「早期診断」のためには「早期」の受診が必要となるが、かかりつけ医の勧めのみではたして「早期」に専門機関への受診が可能だろうか。基本的に認知症患者は「病識がない」ことが特徴的な症状であり、そのために受診を拒むなど専門医療機関へ結びつけることが困難な症例は少なくない。このように早期受診・診断の一つをとっても容易なことではない。年内には来年度からの認知症施策5カ年計画を策定するというので今回の報告書の内容はこれから具体化されるものと思われる。早期診断を行い、早い時期から医療・介護の支援していくことは在宅の時間を少しでも伸ばすことには有効な対策であり、「絵に描いた餅」とならないようしっかりと、確実な施策を整えていくことを期待したい。



## ケアワーカー合同研修

H24.6/27 ~ H24.7/25 【全4回】

今年で3回目を迎えたケアワーカーの合同研修会。各施設からケアワーカーの代表、計24名が参加しました。

開催にあたり、池島常務理事は「医療機関において患者へ良いケアを提供することは大前提であり、皆さんの関わりが大切となる」と激励。続く永澤顧問は、看護助手からケアワーカーへ名称変更した経緯を説明し、「ケアの専門職として誇りを持ち、チーム医療の一員であることを認識して下さい」と強調。研修の意義について触れました。



開会挨拶：池島 常務理事



永澤 看護部顧問

今年のテーマはズバリ「食事」。「おいしく食べる」ための必要な知識や技術を4段階に分けて学びました。

第1回目の基礎研修は、初めに渡辺看護部長の講義で、基本的な食事の介助方法から口腔ケア、誤嚥時の対応などを学習した後、グループワークで自分の技術を振り返り、課題を抽出しました。

更に、第2回は専門研修として、法人が主催する外部の講演会へ参加し、第3回の実施研修では、今まで学習してきたことをチェックリストにまとめ、所属長らと交えて現場での実践・評価を行いました。



全体風景

グループワーク



第1回 基礎研修：横浜ほうゆう病院 渡辺 看護部長

そして最終日。修了研修として各自がレポート発表を行い、「少しでも多く召し上がって頂くことが、患者様の為になると思っていたが違った」「食事介助の演習で患者役をやり、食べたくないものを無理に食べさせられる気持ちを痛感し、介助することが怖くなった」などの感想の他、あるケアワーカーは「ミキサー食で何を食べているか分からない」と感じ提案したところ、「患者一人ひとりの食事にメニュー表が添えられるようになった」と業務改善に繋がった体験を話してくれました。

これからは、この経験を仲間に伝達・共有し、職場全体に浸透させてほしいと思います。



第4回 修了研修：レポート発表、意見交換

### ◆◆◆ 市民向け医療・福祉講座 開催のお知らせ ◆◆◆

【テーマ】認知症の薬について

【日時】平成24年10月20日（土）16：00～18：00

【場所】横浜ほうゆう病院 デイケア内

【お申込み】鵬友会本部 福島 ☎045-810-0331 / 横浜ほうゆう病院 栗原 ☎045-360-8787

**参加費 無料！**